法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 同窓会会報

法士会報

第23号 | 2022年3月14日

発行所：法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科　同窓会
〒162-0843　東京都新宿区市谷田町2-33
TEL・FAX　(03) 5228 1406
発行人　宮　下　清　栄
編集人　会報編集委員会

都市環境デザイン

教室からの報告

オンラインを活用した賢い授業運営

都市環境デザイン工学科　学科主任　教授　今井　龍一

教室からの近況報告としまして、今年度の学部新入生は81名、大学院新入生は23名です。コロナ禍のため、春学期はオンライン授業が中心となりましたが、秋学期は対面授業の実施できる科目も増えました。オンライン授業を開始してもう２年が経とうとしており、教員・学生ともにオンラインの利点を活かした賢い授業運営の経験知を得ることができました。対面授業に戻ってもこの経験知を活かせるように検討して参ります。

就職は今年度も好調です。一方、インターンシップはコロナ禍の情勢により中止になるなど、学生も思うように活動ができない状況もありました。そのような中で法土会の開催・支援によるキャリアデザインセミナーの開催や基礎ゼミナールでの講義は学生達の貴重な機会となりました。ありがとうございました。

当学科として、大学院進学率の向上が重要課題となっています。セミナーや講義の機会にて、法土会の皆様からも是非とも在校生に様々なアドバイスを賜りたく存じます。

今後も法土会の皆様とも緊密に連携を図って、業界の宝となる卒業生を輩出していけるよう取り組んで参りますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

コンクリート材料研究室

都市環境デザイン工学科　コンクリート材料研究室　教授　溝渕　利明

今のコンクリート材料研究室は，前任者の小林正几先生の退職に伴い，私が2001年に赴任してちょうど20年になります。これまでに約220人の学生が私の研究室から巣立っていきました（そのうち，約40人が修士課程に進学しています)。博士は，これまで３人（うち２人は論文博士）で，現在博士取得に向けて頑張っている学生（いずれも社会人です）が５人います。

私の研究テーマは“コンクリートの一生を考える”で，コンクリートの製造から構造物の更新までの材料，施工，維持管理を研究テーマとしています。現在研究テーマとして力を入れているのは，コンクリートの若材齢時の体積変化に伴うひび割れ（温度，自己収縮，乾燥収縮，クリープ等が要因となるひび割れ）の発生メカニズム及びひび割れ発生後の進展メカニズムについての研究と，コンクリート構造物の劣化状況を複数の非破壊検査手法を用いて機械学習による自動総合診断が行える技術開発です。大学に赴任するまでは，約17年間建設会社に勤務しており，在職中に培ったノウハウや現場で求められていた技術を研究テーマ選定の基として，これまで現場に直結する研究テーマを数多く扱ってきました。これからも現場で役立つことができる研究を進めていきたいと思っています。

私も六十歳を超えて，在職期間も段々少なくなってきましたが，これからもコンクリート愛を持った学生を育てていきたいと思っております。

法政大学　理系同窓会ホームページ

http://133.25.196.100/joomla3605/index.php

法政大学　デザイン工学部
都市環境デザイン工学科 同窓会（法土会）ホームページ

https://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/shinro_tokuchou/alumni_association

活躍する卒業生紹介

荒川技研工業株式会社　荒 川　創（1998年院修了）

私は1998年に大学院を卒業後、三井共同建設コンサルタント株式会社に就職しました。ここでは河川計画に関わる仕事に５年ほど従事し、様々な社会経験をさせていただきました。その後父が興した現在の会社（荒川技研工業株式会社)に転職しました。

弊社は金属製品の製造業で、主に建築分野や店舗・商業施設等の内装に使われるワイヤーシステムを開発、製造、販売する会社です。普段は建築や内装設計者との接点が多いですが、最近では、建築物や土木構造物の外構にも使われているワイヤー手摺と呼ばれるものも主力製品で、土木関係の方にも関わる機会も増えてきています。景観保全と安全性両立の観点から多くの採用実績があります。

また、当社のワイヤーを固定する機能「アラカワグリップ」を利用し、絵画などを吊るピクチャーハンギングシステムは、日本の美術館だけでなく、メトロポリタン美術館（アメリカ）やエルミタージュ美術館（ロシア）などでも採用されています。

当社のモットーは「ないものを創る」からはじまる「協創」です。当社の経験・技術を活用しながら世の中をワクワクさせるような何かを一緒に創り出すことを夢見ています。ギャラリーも併設しているショールームが表参道にありますので興味ある方はぜひ遊びに来てください。法土会のネットワークで互いに新しい可能性が拡がることを願っています。

当社のワイヤー手摺を採用したテラス

八千代エンジニヤリング株式会社　植 田 大 造（2000年院修了）

2000年に大学院を修了し、八千代エンジニヤリング株式会社に入社して22年目になります。入社後12年ほど河川分野の技術者として計画や設計等の業務に従事し、その後開発部門と経営企画部門を経て、現在は開発部門に戻り新規事業創出を担当しております。

法政大学で学んだ土木は、社会の基盤として人々の暮らしや産業を支える「縁の下の力持ち」の役割がありますが、昨今は急速な社会の変化や技術革新に伴って、その役割が変わりつつあると感じます。今やまちづくりの目指すものは、人や地球にとっての「幸福=well-being」であり、そのために社会インフラがどうあるべきか？といった議論がされるようになりました。例えばwell-beingの要素の一つとして「健康」をテーマに、健康維持・増進に寄与するまちを考えることや、「環境」をテーマにゼロカーボンなまちを考えるといった具合です。

社会の課題が複雑に絡み合っている中で、社会インフラだけで解決できるものは限定的であるため、エネルギーといった生活インフラや人間及び産業活動を考慮して最適解を見出すことが必要です。そのため様々な分野の知見が求められるようになっており、異なるバックグラウンドを持つメンバーと仕事を進めていますが、その中で土木の知見や社会インフラが持つ重要性を感じることがよくあります。

社会インフラのあり方を改めて考え、持続可能な社会づくりに少しでも貢献できればと思います。